

こんにちは。

2022年5月の留学報告です。オーストラリアに留学してから二か月、現地校が始まってから一か月が経ちました。最近は雨の日や風の強い日が増えてきて、登下校の時は防寒着が手放せなくなっています。現地校での生活には少しずつ慣れてきましたが、まだまだ他の生徒との差を感じる毎日です。今回は、私のオーストラリアでの学校生活について話したいと思います。

現地校での生活は驚きの連続でした。まず、教科書は一冊も必要なく、授業や課題はほぼすべてパソコンで行います。授業で使われる資料は全てポータルに入っており、課題もデジタルで提出します。パソコンの充電がすぐ切れるので、教室の床にはコンセントがそこかしこに設置されています。また、教室は一つ一つが壁で区切られておらず、机やイスが配置されたホールのような空間をなんとなく区切って使っています。授業がパソコンメインなものも教室が開放的なものもここではあまり珍しいことではないのかもしれませんが、私にとっては衝撃的なことでした。

履修している教科と授業内容にも大きな違いがあります。Biodiversity という授業では、班ごとにリサーチクエスチョンを立てて実験を行ったりと思えば数学の課題が出たり英語の課題が出たりとその内容は多岐にわたります。あまりに統一感がないので自分でもどんな教科なのかよくわかりません。Dream Design Develop という授業では、生徒一人一人が将来の職業を一つ選択し、それになるために必要な技術や知識などを調べてまとめます。Learning Studies は毎日40分の時間があり、主に各自が課題を進める時間になっています。この他にも、Order from Chaos という名前の数学の授業があったり、Passion Project という生徒が興味のある分野を選択して学ぶことができる授業などがあります。授業時間は一コマ100分で一日4コマとまるで大学のような時間割になっています。このように私の学校はかなり特殊な時間割を持っていますが、生徒たちはのびのびとしていて主体的に勉強に取り組んでいます。

学校の人たちは生徒も先生もみな優しく、友達はまだできていませんが知り合いは何人もできました。自分の英語力不足を痛感する毎日ですが、学校の先生に言われた“*No question is silly*”を胸に日々新しいことを吸収していこうと思います。

白鷗高校14期生 次世代リーダー10期生 K・M